

土浦試合開始 ～土浦市を愛し始めよう～

TA:飯田マリ

班長:土居千紘 副班長:今井純 議事録:樋口雄一 書記:森英高

1. 目指す都市像

1-1 土浦試合開始とは

私たちの班は、「土浦試合開始」をテーマとし、本実習を進めていきたい。この「土浦試合開始」には、「今からより魅力的な土浦にするべく、行動を開始していこう。」という意味以外にも、2つの意味を含んでいる。

1つは「土浦市愛開始(つちうらしあいはいし)」である。これはサブタイトルにあるように

土浦市を
愛することを
開始する

という意味である。土浦という土地をよりよいものにしていくためには、土浦市民が土浦市自体を愛することが必要であるという私たちの考えを反映させたものである。

もう1つは「土浦思愛皆支(つちうらしあいはいし)」である。これは

土浦市民が
思い合うことで
愛が芽生え
皆で

支えあって生きていくまち

という意味である。土浦市民が土浦市民自体を愛することで、皆が支えあうことのできるまちを作り上げるということを表している。

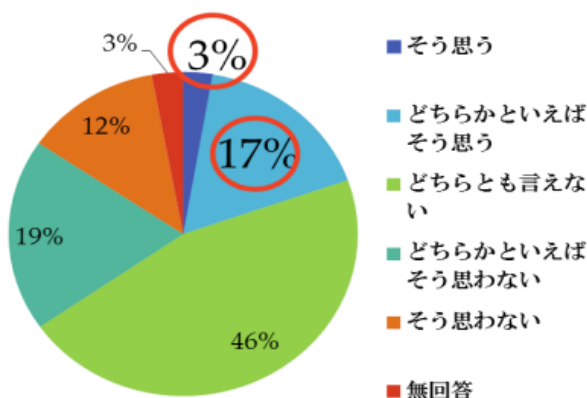
私たちの班では、「土浦試合開始」を実現するためには「コミュニティ」が重要であると考えた。

1-2 コミュニティ

1-2-1 土浦市の実態

土浦市民を対象とした市民満足度調査によると、地域コミュニティが良好であると考えている割合は全体の約20%に過ぎないことが分かる(図1-1)。また、同調査より地域での触れ合いに対する満足度も年々減少している(図1-2)。それに対して、地域での触れ合いへの重要度は上昇している。

地域コミュニティが良好である



(H22市民満足度調査より)

図 1-1. 住民によりコミュニティへの満足度

地域の活動や近隣住民との触れ合い

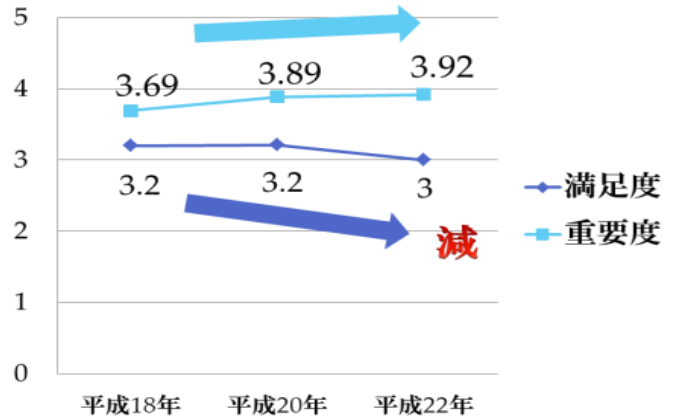


図 1-2 コミュニティの満足度・重要度

以上のことより、土浦市においてコミュニティが重要視している一方で、満足が得られていないことが分かった。

1-2-2 事例

福島県福島市大森という地方においてのコミュニティの事例を紹介したい。大森では大森小学校の学区を5つに分けそれぞれに少年団が形成されており、春～秋にかけてはソフトボール、冬にはドッジボールを中心とした室内球技に取り組み、それぞれ9月と2月に地区別対抗の競技大会が開催されている。これにより、児童・保護者同士の交流が盛んとなるだけではなく、地域そのもののコミュニティ形成が強くなり、2011年3月11日の東日本大震災の際には、学区を5つに分けられたそれぞれの地域における安否確認がスムーズに行われた。

この大森の事例から、スポーツを利用することでコミュニティを活性化することができるのではないかと私たちは考えた。

1-3 スポーツの定義

ここで私たちの考えるスポーツを定義していきたい。

スポーツ

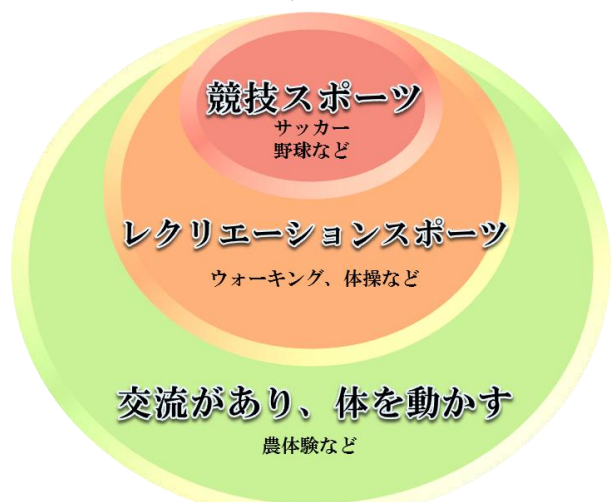


図 1-3. 私たちが提案するスポーツ図

今回の提案では、プロのスポーツや部活動などの競技スポーツや、ウォーキング・体操などのレクリエーションスポーツだけではなく、農体験などの「交流」が生まれ、身体を使う活動のことを「スポーツ」とする。その理由としては、私たちの考えるスポーツとは「交流」が生まれることによりコミュニティが強化されることが目的としているためである。

1-4 都市イメージ

私たちの班ではスポーツを1つの手段としてコミュニティの強化を図る。それにより、土浦市内の教育・観光・医療福祉・産業・防災・環境・交通まだ波及効果が及び、土浦市全体が活性化され、様々な人に愛される土浦を作ること目標とする。

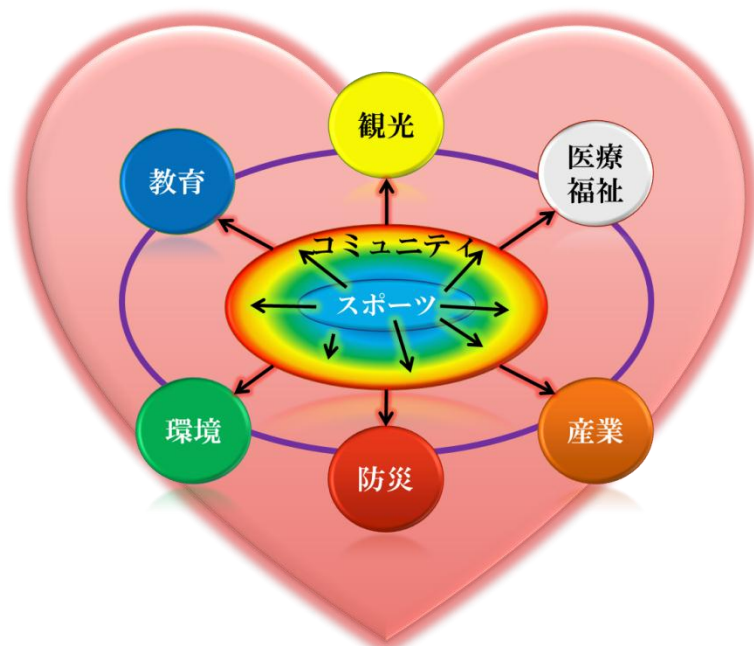


図 1-4 目指す土浦市の都市イメージ

また、現在衰退している駅周辺や移転先が決まっていない市役所の配置など、土浦市が愛されるような政策を進めていく。

1-5 人口フレーム

コーホート要因法を用いることで、土浦市の人口予測を行った(図 1-5)。その結果、土浦市の現在の人口が約 14 万人であるのに対し、2030 年には約 11 万人に減少するという結果が得られた。しかし、この現象は転出による影響は少なく、自然的な現象であることも分かった。

以上のことから、現在の土浦市民の定着を図るとともに、今後より魅力的な街づくりをすることで外部からの転居を望むことで、現状の規模を維持することを人口フレームの目標とする。

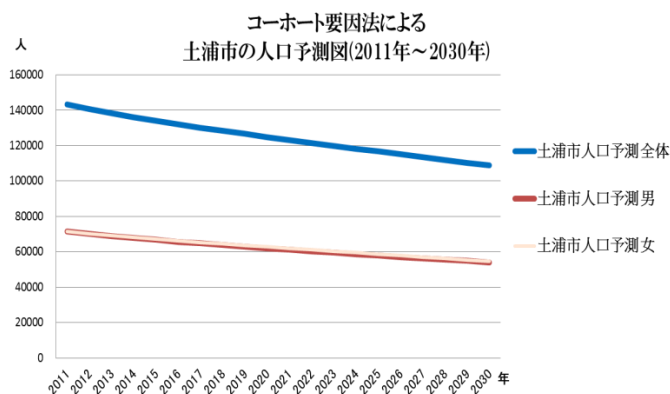


図 1-5. コーホート要因法による人口推定

2.現状

2-1 スポーツ

2-1-1 市民満足度アンケート

市民満足度アンケートによると、土浦市にほしいものとして、市民の方々は公園・スポーツ施設をあげている(表1)。また、土浦市ならではのもので、まだ生かされていないものとして、霞ヶ浦があげられている(表2)。更に項目を分析すると、霞ヶ浦をマリンスポーツやウォーキング・サイクリングへ活用すべきという意見が見られた。

以上のことから、土浦市民はスポーツへの関心が高いといえると私たちは考えた。

表 1. 土浦市にほしいもの

【市民】 N=1,897(複数回答)

キーワード	回答数	割合
図書館/CD、DVD、貸出、テレビカー、モニター、(画質、イベル、利用時間、場所)		
(モール505、ウララ)	173	9.1%
公園・森林公園(設置・安全・管理・メンテナンスの継続・アスレチック・ラバーロード・全天候型・トイレ整備・駐車場)	127	6.7%
スポーツ施設・体育館(教室・テニスコート・霞ヶ浦利用のマリンスポーツ・高齢者向け・)		
トイレ整備)	105	5.5%
キララちゃんバス(便利・路線拡充・不平等なので全市巡回が廃止)	89	4.7%
交通機関(電車、市電、バス、タクシー・無料化)	75	4.0%

表 2 土浦でまだ生かされていないもの

① 市民 上位10項目 N=1,014(複数回答)

順位	キーワード	回答数
1	霞ヶ浦(水質浄化・観光・帆走き船・京成ホテル跡地開発・駅からのアクセス・ウォーキング・サイクリング・女神像・航空機競技・マリンスポーツ)	245
2	レンコン(花含む・レンコン博物館・レンコン公園)など農作物・レンコン等で新商品開発	117
3	ふるさと自慢を思いつかない、特徴がない、案内できるところが無い	48
4	花火大会(場所含む)	44
5	自然(水郷・緑・新治地区・ほたる)、気候、住みやすさ、災害が少ない	25
6	歴史(標識・歴史の小径・ウォークラリー・資料館・小中学校で学ぶ時間を作る)・伝統	24
7	外に向けての売り込み	22
8	筑波山(シャトルバス)	21
9	亀城公園(駐車場・ミニ遊園地・ミニ動物園・歴史事実に関わらないものがある・遊歩道整備)	20
9	果物(梨・柿・栗・ぶどう)	20

2-1-2 公園

全体として公園の数自体が少ない。また面積も非常に狭いものが多くなっている。更に均等に分布しているとは言えず、地域によって格差が生まれている。私たちが提案するコミュニティ形成はしにくく、運動する空間の確保もできていない。更に、防災面から見ても避難場所の不足につながっているように感じる。

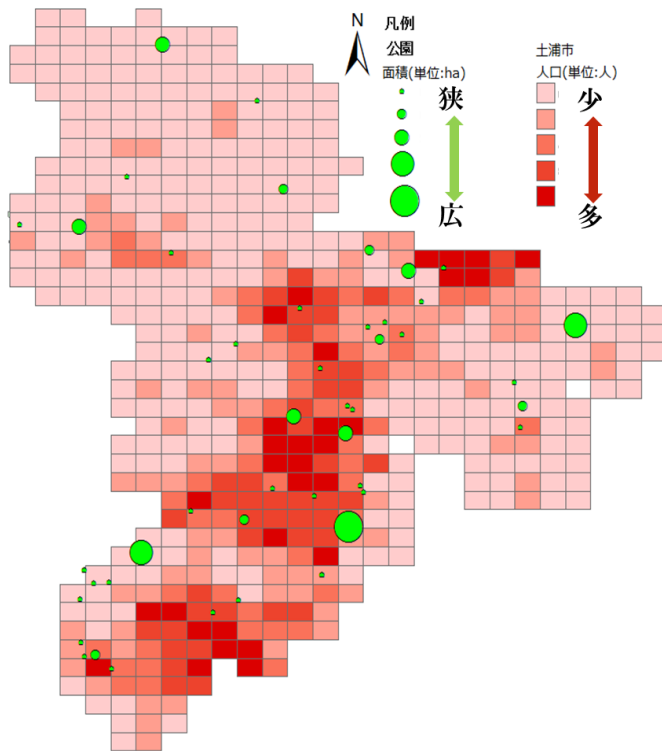


図 2-1.土浦市の公園分布

2-1-3 運動施設

運動施設が特定の地域に集中していることが分かる。これにより地域差が生じてしまうだけでなく、私たちの目的であるコミュニティの形成がしにくくなると考えられる。

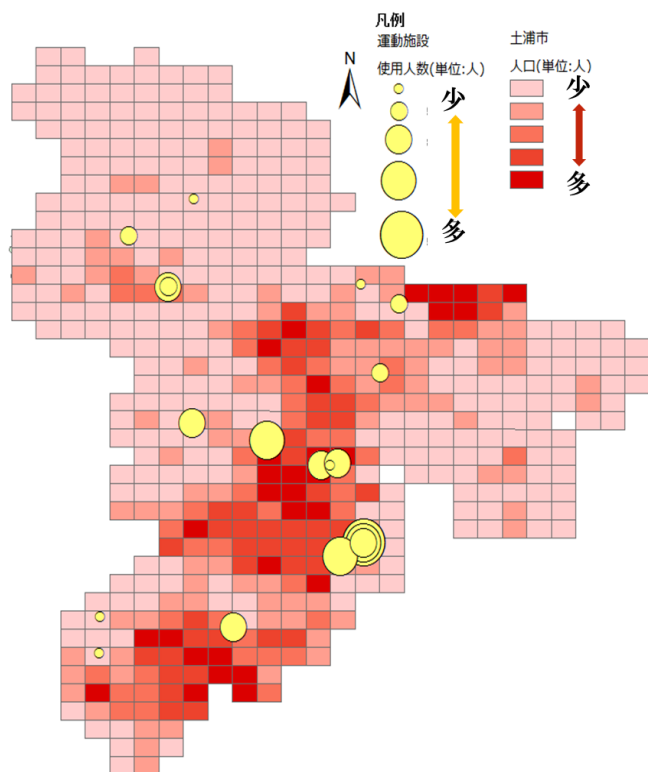


図 2-2.土浦市の運動施設分布

2-1-4 スポーツイベント

かすみがうらマラソン・土浦マラソン大会などイベントは充実しているよう。しかし、高齢者向けにスポーツ大会やゲートボール大会が開催されている一方、高齢者と若者などの多世代による交流イベントの数が少ない。

せっかく同じスポーツに取り組んでいるにもかかわらず交流する場が提供されていないイベントを整備することや、今あるイベントのシステムを改善することで、よりよいコミュニティが形成されと考えられる。

2-1-5 霞ヶ浦

現在かすみがうらの水質は改善してきている。しかし、水質汚濁を示す COD など、多くの指標において依然として水質が汚染されているという結果が見られた。

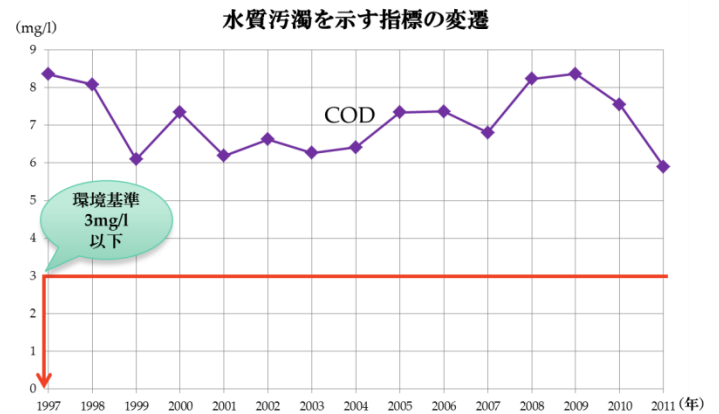


図 2-3.霞ヶ浦の水質現状

霞ヶ浦周辺を訪れる観光客数は年間 560 万人で、茨城県全体の観光客数の約 17%に相当する。また、霞ヶ浦ではマリンスポーツが行われており、ボートやフィッシングなどにも活用されている。

2-2 その他

2-2-1 農業

平成 18 年の茨城農林水産統計年報から、農業の現況を見てみると、農業産出額は 96 億 8000 万円で、米が 14.5%、野菜 45.6%、花き 9.9%、果実 7.7%、畜産類 19.1%、その他 3.2%となっている。

特産物としては、霞ヶ浦湖岸の低湿地帯の特性を生かし、全国生産量第 1 位（約 500 h a の作付面積）のれんこん（茨城県銘柄産地指定）や、市北西部でのグラジオラス（茨城県銘柄産地指定）やアルストロメリア（茨城県銘柄推進産地指定）、菊、ヤナギを中心とした花きの栽培が盛んで、全国的に有数の産地となっている。

2-2-2 工業

平成 20 年工業統計調査では、事業所数 187 社、従業員数 12,312 人、製造出荷額 8,933 億円で、過去 3 年間を比較しても、事業所数及び従業員数・製造品出荷額とも増加を示している。

	事業所数			従業員数 (人)	製造品出荷額等 (万円)
	4～29人	30～299人	300人以上		
平成18年	125	34	9	12,231	72,396,311
平成19年	134	39	9	13,152	83,089,505
平成20年	142	35	10	12,312	89,330,287

図 2.4. 工業数、従業員数、出荷額の推移

2-2-3 公共交通

市内 3 駅の利用者数は、年々減少傾向にあり、過去 10 年で、1 日あたり 1 万人以上減少している。また、路線バスにおいても同様の傾向があり、利用者数が 1 万人以上減少し、半数以下になっている。また、まちづくり活性化バスキラちゃんや、のりあいタクシー土浦など、新たなニーズに応じて導入された公共交通については、利用者が増加する傾向にある。

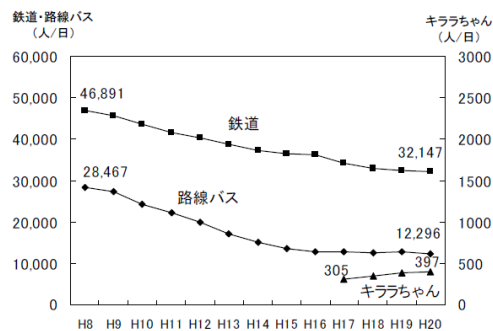


図 2-5.公共交通の利用状況

資料：鉄道（統計つちうら）、路線バス（統計つちうら）、キララちゃん（商工観光課）
 注：鉄道は市内3駅の利用者数の合計値
 路線バスには関鉄グリーンバスと関鉄パープルバスは含んでいない
 路線バスとキララちゃんは年間利用者数を運行日数で割った値

図 2-5.公共交通の利用状況

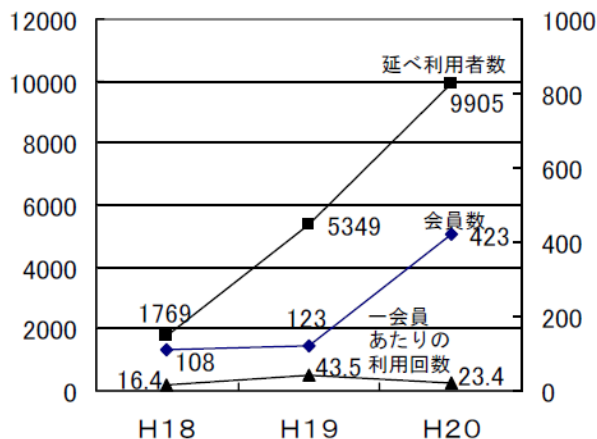


図 2-6.のりあいタクシー利用状況

3.基本構想

3-1 問題点の整理

以上の現状把握より、3つの問題点が考えられる。

1つ目は公園・運動施設の数が少ないことである。公園や運動施設が少ないということは、コミュニティ形成する場所が少ないことを意味する。つまり、市民がコミュニティ強化のために活動をしたくてもする場所が少ないことを意味している。そこで私たちはそのような場所の提供及びその場所を利用しやすくするための空間づくりが重要であると考えた。具体的な提案としては、ポケットパークの確保や公共交通整備などを考えている。

2つ目はスポーツイベントにおける多世代交流が少ないということである。高齢者向けのスポーツ大会やゲートボール大会など行われているが子どもから大人まで交流できるイベントが少ない。私たちは単にスポーツを行うのではなく、たくさんの交流をすることでコミュニティ環境がよくなると考える。そこで、現状のスポーツイベントについてさらに調査していき、現状のシステムの見直しを行ってより良いシステムの構築やたくさんの市民が交流できる新たなイベント作りをしたいと考えている。

3つ目は霞ヶ浦の水質汚濁と霞ヶ浦がうまく活用されていないということである。霞ヶ浦は土浦にとっても大切な資源であり、魅力のある資源でもある。市民のニーズを考えると、霞ヶ浦をもっと活用していくべきだと考える。具体的な提案として、霞ヶ浦の水質浄化活動の充実やマリンスポーツの推進などを考えている。

3-2 提案

私たちは大きく分けて3つの提案をした。

1つ目は「スポーツをする空間整備・向上」である。スポーツを行うことが増えるということは、高齢者の生活習慣病の予防などになる。さらに、ポケットパークや運動施設ができることにより避難場所の確保ができ防災におけるハード面の強化になります。そして、空間整備することで、景観が良くなる。つまり「スポーツをする空間整備・向上」は主に交通、医療・福祉、環境、防災のそれぞれの面で良くなることと考えられる。

2つ目は「スポーツイベントの活用」である。これを行うことで、新たなイベントにより、観光のひとつの魅力になる。また、システムを再構築することで、家に引きこもっている一人暮らしの高齢者などがスポーツイベントに参加してもらうことが可能になる。また、スポーツイベントをたくさん行うことでまちに賑わいが生まれ商業なども活性化する。さらにイベントに参加してもらうことで、多世代の交流が生まれ人格形成につながる。つまり、「スポーツイベントの活用」は主に観光、医療・福祉、産業、教育のそれぞれの面で良くなると考えられる。

3つ目は「霞ヶ浦の活用」である。霞ヶ浦は茨城県にとっても観光施設でもあるため、霞ヶ浦の魅力を向上することによって、土浦市民だけでなく外部から来る人の利用増加につながる。また、水質浄化を行うことで純粋に環境が良くなる。さらに、環境が良くなることで住民が環境に対し更に考慮した生活をするようになる。つまり、「霞ヶ浦の活用」は主に観光、環境のそれぞれの面で良くなると考えられる。

4.今後の活動

今回の調査・分析の中から出てきた各項目をより具体的な提案とできるように、今後も調査・分析を繰り返して行く。

また、土浦市単位だけではなく、各地域においても具体的な改善案を提示することを常に考えながら実習を行って行く必要がある。

5.参考

今回の実習にあたって、東京都町田市の事例を参考として活用した。町田市では2009年に「スポーツ振興計画」が策定され、「スポーツで人とまちが1つになる」を理念として活動を進めている。この中で、スポーツを「する」・「みる」・「支える」と分類し、スポーツの振興を図っている。

<参考文献>

社会法人土浦市社会福祉協議会

http://www.doshakyo.or.jp/02_01_c.html

(最終閲覧日：2011年12月)

霞ヶ浦水質調査結果

<http://www.ktr.mlit.go.jp/kasumi/kasumi00145.html> (最終閲覧日：2011年12月)

統計局

<http://www.stat.go.jp/> (最終閲覧日：2011年12月)

土浦市ホームページ

<http://www.city.tsuchiura.lg.jp/index.php> (最終閲覧日：2011年12月)

東京都町田市

<http://www.city.machida.tokyo.jp/> (最終閲覧日：2011年12月)